

水とつながる授業、 水がつながる地域

サレジアン国際学園世田谷中学高等学校
(旧目黒星美学園中学高等学校)

本校について

2023年4月より
校名変更・共学化
本科及びインター
ナショナルクラス
を設置



サレジオン国際学園世田谷
中学高等学校

SALESIAN INTERNATIONAL SCHOOL SETAGAYA



-2022年度の活動報告 + α -



(1) 防災啓発活動(災害時のトイレ問題)

1. 二子玉川わくわく防災教室 (地域)
2. 砧公園防災フェスタ (地域)
3. 保健委員やボランティアクラブでの
携帯トイレ啓発活動 (校内)

わくわく防災教室 2022年7月



避難所訓練体験

二子玉川の「避難」を知ろう学ぼう

二子玉川で災害が起きたら、あなたはどうすればよいか知っていますか？

日時 令和4年7月24日(日)9:30~11:40

定員 30名(先着)

場所 二子玉川小学校/二子玉川まちづくりセンター

申込 Googleフォーム

右上のQRコードからアクセスできます
<https://forms.gle/SwTtC33PnmvHz97m6>



期限 7月10日(日)まで

プログラム

9:30 小学校の防災倉庫前に集合

防災倉庫確認・訓練体験

発電機操作、灯油バーナー操作

(終了後、二子玉川まちづくりセンターに移動)

10:35 二子玉川防災塾

目黒星美学園中学高等学校のみなさんによる

「わくわく防災・減災」A1型プログラム

・生徒のアイデアが詰まったDVDのDVD版上映

・「気軽に楽しく！すぐできる身近な備え」紹介コーナーなど

11:40 終了

ポジティブに防災を考える

わくわく防災・減災

日常の中で無理なく災害に備える

3つの防災「かいたく」力

不安な時こそ一度冷静になる

災害の「だいふく」って何？

心のお守りをいつもカバンに入れておく

もっていると安心

TOIROポーチと携帯トイレ

在宅避難の際に受け取れる備蓄品を確認しましょう！
当日、飲み物と災害備蓄用ビスケット、目黒星美の皆さんからのオリジナル防災グッズを配布します！！

協力 目黒星美学園中学高等学校 PFFプロジェクト 京百合子先生
主催 二子玉川スポーツ少年団/玉川町会/二子玉川まちづくりセンター/二子玉川小学校/二子玉川小学校PTA

わくわく防災教室 2022年7月



わくわく防災教室 2022年7月

(参加者からのメッセージ)

一生懸命頑張っている姿には胸を打たれました。
みんなで乗り越えて明るい未来を繋いでいこうという想いであると受け止めました。

防災動画の作成 2021年度の活動



改宅力



回卓力



解択力



3つの
「防災かいたく力」

ボランティアクラブの活動



災害時のトイレ問題のレクチャーと携帯トイレづくり

(2) じゅんかん育ち × コスメ開発

コスメ開発に向けたリサーチ



「ラベンダーProject」

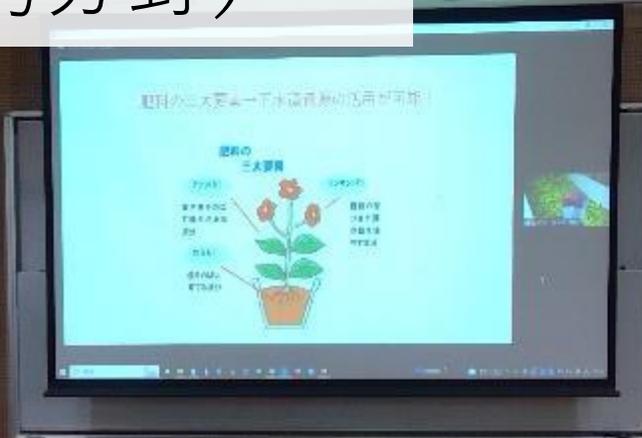
始動！



(3) 水をテーマにした授業の開発

1. 社会科の授業
2. 放送朝礼
3. 大学生との連携

日水コン・佐々木様による特別授業 (中学3年生・社会公民的分野)



特別授業「じゅんかん育ち」2023年2月

(生徒の感想)

自分たちが出した下水に栄養がたくさん含まれていて、肥料に使えることは初めて知り、驚いた。
このことを消費者にも広く知ってほしい。

特別授業「じゅんかん育ち」2023年2月

(生徒の感想)

下水汚泥の肥料がもっと広まれば
循環型社会に近づくと思った。

私もその肥料を使った野菜を買っ
てみたい。

特別授業「じゅんかん育ち」2023年2月

(生徒の感想)

下水道と聞くと、汚いイメージが浮かんでいました。しかし、下水道から得られる肥料があり、野菜を育てることに使われていることを知り、イメージが変わった。

特別授業「じゅんかん育ち」2023年2月

(生徒の感想)

農業高校との取り組みに興味があった。私たちと年が近い人たちが新たな取り組みを行うことはすごいと思った。今回の授業で、下水への見方が変わり良かった。

成果の発信

中等教育資料

令和5年
6
No.1045

中学校・高等学校の授業研究と教育課程の編成・実施のために

特集

I 学校段階間の接続を踏まえた 指導に向けて①

<国語, 社会・地理歴史・公民, 数学, 理科>

II 地域と創る防災教育



文部科学省教育課程課編集

「実践研究」



サレジアン国際学園世田谷中学高等学校

地域と連携した防災教育の 実践とその背景

～希「望」をもって「最」善の選択肢を考えられる
教育を目指す～

1 本校について

本校は、世田谷区にある中高一貫の私立学校である。令和5年度より、目黒星美学園中等高等学校からサレジアン国際学園世田谷中学高等学校に校名を変更したほか、女子校から共学化し、本科クラスとインターナショナルクラスを設置した。現在は、学校の変化に即した新しい防災教育の在り方を模索している段階であるが、本稿では、昨年度まで目黒星美学園として取り組んできたことを中心に紹介する。

本校が本格的に防災教育をスタートしたのは平成27年であるが、その前段階で、筆者は防災教育の研修会に参加したり、情報収集を行ったりした。その際、具体的な実践例以上に、「どうすれば生徒が主体的に防災に取り組むようになるのか」という、実践の背景にある「防災

教育の工夫」について情報を知りたいと感じていた。そこで本稿では、実践例と併せて、その実践を可能にした日常での工夫など、プロセスについても可能な限り述べていきたい。

2 地域連携の目的と効果

これまで様々な学外組織と連携して防災教育を進めてきた。連携先は、本校が位置する地域だけではなく、企業や東日本大震災を経験した自治体など多岐にわたる。その際に有効であったのは、地道につながりを見つけ、かつ「何でも防災に結び付けてみる」という試みである。

例えば、中学1年生の社会科見学で化粧品工場を訪れた際は、見学先の企業において、「化粧品と防災」をテーマにした生徒の発表を見ていただいた。この経験を通じて、生徒は身の回りにある日用品が災害時にも役立つと気づき、日

■ 特集 / 地域と創る防災教育 ■

常備意識をもった。中にはこの経験によって防災に強く関心を持ち、中学校・高等学校の在学期間を通じて積極的に防災活動に取り組むようになった生徒もいる。

また、筆者が近所の防災訓練に参加した際に、災害現場に派遣された区の職員と出会い、すぐに連携をお願いしたこともある。このつながりは、中学校社会科公民的分野の授業における「防災化授業」に発展した。これは複数の単元を防災の視点で学んだ上で、身近な地域の防災上の課題を考え、行政職員や地域住民を招いて解決策を発表するというものである。学習内容を消化しながら、実際の社会参画を経験させることで公民的分野の目標を達成すると同時に、生徒に防災に関する多角的な見方や考え方を身に付けさせ、防災意識を高めることができた。

た。
本校ではすぐに携帯トイレを備蓄品に加えたが、「携帯トイレがあっても、年頃の女子中高生は使うことに抵抗感を持ち、水分を取ることを控えてしまうのではないか」という新たな課題が浮かんだ。ここから、防災はハードの備えだけでは不十分で、ソフトの備え、つまり防災教育が重要であると考え、「どうすれば、生徒に災害時に水分をしっかりと取って、トイレに行く意識をもたせられるか」が最初の防災教育のテーマとなった。

まず、全校朝礼にポータブルトイレを持ち込み、携帯トイレの使い方を生徒に説明した。その際にも重視したことは、携帯トイレのイメージアップである。「災害時のトイレ問題を地域の人に伝えることは、多くの人の命を救うことにつながる」と生徒に伝えることで、災害時のトイレ問題に対して、「恥ずかしくて汚い

くことではないだろうか。本校では今後も試行錯誤しながら、平常時も災害時も希「望」をもって「最」善の選択肢を考えられる教育に取り組んでいきたい。

1 実践の詳細は、目黒星美学園「わくわく防災減災一毎日、学校で防災について考えてみた 1 から分かる！学校の日常に防災教育を入れるコツと、生徒が活躍できる地域連携のススメ」(防災教育チャレンジプランホームページ内の2019年度実践団体の報告)に掲載。

2 動画は世田谷区の公式YouTubeチャンネルで公開されている(「わくわく防災減災～日常でできる防災のヒント～」(2024年9月まで視聴可能))。本動画は、一般財団法人水・地域イノベーション財団の助成を受けて制作した。

(教諭 京百合子)

「+ α 」 —現在の取り組み—

1. 防災教育の手引き（中高向け）への実践例の提供
2. 世田谷区の防災啓発冊子への作成協力
3. 防災イベントでのパネリスト

ご清聴ありがとうございました。

～水とつなぐ授業、水がつなぐ地域～

